

40年超原発 再稼働へ

知事同意 新基準で全国初

杉本浩治福井県知事は28日、県庁で記者会見し、運転開始から40年を超える関西電力美浜原発3号機と高浜原発1、2号機の再稼働への同意を表明した。会見後、福山弘志経済産業相に電話で伝えた。国と関西電力は地元同意を得たことで、東京電力福島第1原発事故後に定めた原則40年の期間を超えた初の延長運転が可能になり、国が目指す既存原発の長期活用に道を開く。知事は「安全補給に際しては、徹底的に安全最優先を進めてほしい」と述べた。(伊豆倉知)

【2、3、29面に関連記事】



運転開始から40年を超える関西電力の原発3基の再稼働に同意を表明する杉本知事=28日午前11時15分ごろ、県庁(柿木孝介撮影)

関電美浜3、高浜1、2号

再稼働の工程について関電は「今後検討を行い、社内で意思決定する。燃料装荷を含め、再稼働時期は現時点で未定」とした。3基はいずれもテロ対策施設の整備が遅れており、再稼働しても高浜1、2号機は6月9日、美浜3号機は10月25日の設置期限を迎える。25日の設置期限を迎えるまで停止する。高浜2号機は安全対策工事が完了するまでは再稼働できない。

杉本知事は会見で、福山経産相が脱原発社会の実現に向けて原子力を持続的に活用し、国が創設する「立地地域の将来へ向け共創

会議には政府一体となつて取り組むと「明言したことなどを評価し、「福井県の原子力行政の原則に照らし、国と事業者からなされた内容を確認した。総合的に勘案し再稼働に同意することとした」と説明した。

一方、再稼働すれば福島事故後になってきたルールでは国内初の40年超運転となり、3基ともに約10年停止していることを踏まえ「県民の皆さんに不安の声があることは十分承知している」と述べ、国と関西電力に安全確保の徹底を求めていくと強調。電力消費地が立地

されるよう、原子力の必要性や重要性、安全性を分かりやすく国民に説明することも促す。

関電が2023年末までに県外の計画地点を確定させるとする使用済核燃料中間貯蔵施設に關しては、「地点の確定を急ぐよう求めていく。約束を守ってもらうために監視、監督も必要な措置を行う」とした。

福山経産相は28日、知事の同意について「再稼働への理解が表明されたことは非常に重要だと歓迎した。3基の再稼働については国は昨年10月、地元と協力を要請した。川崎秀樹美浜町長と野瀬豊高浜町長は今年2月に同意を表明し、県会は今月23日に事実上同意。知事は県原子力安全専門委員会から安全対策を検討した報告書を受け取り、24日に原発発を視察した。

美浜3号機と高浜1、2号機は1974〜76年に営業運転を開始。いずれも2016年に運転延長が認可されたが、11年に定期検査入りして以降、運転を停止している。

不安根強く安全向上を

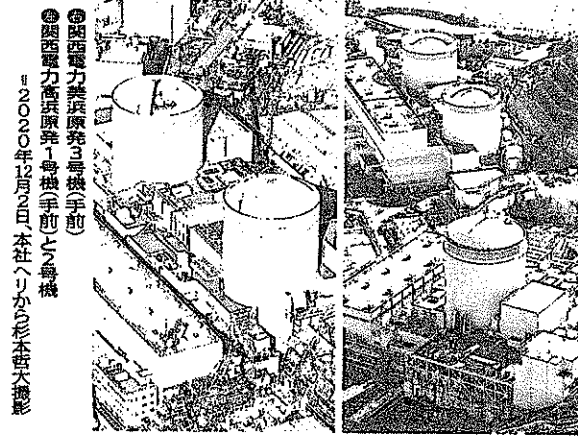
【解説】 杉本浩治福井県知事が、運転開始から40年を超える関西電力の原発3基の再稼働に全国で初めて同意した。国が将来的な原子力活用の方針を明確に示した点を評価した形だが、高齢化や停止から約10年ぶりとなる起動といった安全性に対する県民の不安は根強い。国や関西電力は引き続き安全性能向上への取り組みや理解促進活動が求められる。3基の安全対策を201

6年から実施してきた県原子力安全専門委員会の報告書(文保委員長(福井大教授)は「一審委員会として安全のお墨付きを与えるものではない」と指摘する。取りまとめた報告書では関西電力の組織の経年劣化のリスク拡大や国際機関の外部評価などを求めた。安全性向上に終わりはない(森本孝社長)とする関西電力の対応を今後注視する必要がある。

一方、国は電力安定供給のために原発再稼働を推進しながら、現行のエネルギー基本計画では依存度の低減に言及しており、杉本知事は明確な位置付けを要請してきた。福山弘志経産相は27日の知事との会談で、国が掲げる「50年カーボンニュートラル」や30年度の温室効果ガス排出量を13年度比で46%削減する目標達成に向け、「将来にわたって原子力を持続的に活用していく」と明言。知事はこれを国の「覚悟」と評価し最終判断に至った。

扱ってはならないのは今後の再稼働に伴い、原発構内には使用済み核燃料がたまり続けることだ。県内では40年超を含む関電7基が運転を続けるうち9年でサイト内の燃料プールが満杯になる。

関電は、40年超原発3基の再稼働の前段として、中間貯蔵施設の県外立地地点を23年末までに確定させる」と県に約束した。確定できない場合は40年超原発の運転は実施しないとしたが、プールが逼迫し中間貯蔵施設がない状態では全ての原発の停止も検討する必要がある(野田勉)



●関西電力美浜原発3号機手前
●関西電力高浜原発1号機手前

2020年12月2日、本社へリから杉本浩治知事

再稼働 歓迎と懸念と

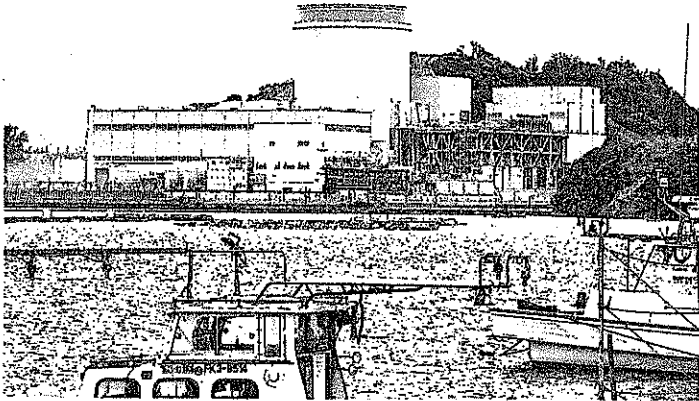
40年超原発 知事同意

立地住民「本当に事故なく」

杉本達彦福井県知事が運転開始から40年を超える関西電力の原発3基の再稼働に同意した28日、原発が立地する美浜、高浜両町の住民からは「経済の先行が見通せる」と歓迎の声が多く聞かれた。一方で、「事故の一抹の不安は消えない」など懸念も少なくなかった。

(北川龍次、川上桂)

【一面に本記】



40年超運転となる再稼働に杉本知事が同意した
関西電力美浜原発3号機=28日、美浜町丹生

美浜原発から5キロ圏内にある美浜町竹波の澤田忠義区長(61)は「(原発が止まった)この10年間、にぎやかな商店街から人がいなくなってきた感じが」。再稼働すれば定期検査などで町内の業者が潤うなどと、「ずっと辛抱してきた。再び活気づくだろう」と期待した。その上で「これだけ安全といわれても地元として不安は必ずある。本当に事故のないように。それだけを願っている」と注文した。

元美浜町議の山崎俊太郎さん(81)は「(2004年の)蒸気噴出事故を反省し安全性向上に努めているというが、本当に安全なのか。原発マネーの問題もあり不信感はある」と漏らした。使用済み核燃料の中間貯蔵施設の問題も解決されていないとし、「不安材料を抱えながら再稼働してもよいのか」と嘆いた。

高浜町商工会の田中康隆会長(69)は「原発は地域最大の雇用先で、関係者の多くが町内に宿泊している。定期検査も見込み、町の経済にとってありがたい」と歓迎する。70代男性

は「やっと同意かという思い」と安堵の表情。「原発は悪いものではない。日本のエネルギーを支えてきたことが冷静に評価されるきっかけになれば」と願った。

消極的賛成という60代女性「審査で安全は確認されているが、事故への不安

は常に持っている」と吐露する。原発の仕事に携わっている町民が多いため、懸念の声を上げられない人は一定数いるとし、「地域経済のため致し方ないが、もろ手を挙げて喜べない」と顔を曇らせた。

再稼働に反対し県内原発の廃炉を求めてきた渡邊幸高浜町議は「再稼働ありきの議論だった。大事故が起きたらどうなるか、身に置き換えて考える責任が政治にはある」と非難した。